

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500083		
法人名	合同会社グローリー		
事業所名	グループホームみつばちの家 東館		
所在地	長崎県大村市竹松本町685番地8		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、交通の便の良い静かな住宅街の中で、大変恵まれた環境の中に立地しています。ホームの敷地入り口には今年度、掲示板を設置し、当グループホームの取り組みを地域の方々へ発信しています。また、スタッフ間で地域活動委員会、生活管理委員会を立ち上げ、地域活動としては、入居者が作った雑巾や編み物の作品を、お世話になった方々へ配布したり、畑や庭(ベンチを設置しました)を入居者と共に整備し、将来的には、畑で出来た野菜を配ったり、近所の方々をお庭へ招待できたらと思っています。生活管理活動としては、入居者の心身の健康、QOLの追求を目指しています。また、音楽を楽しむ場も多くあり、ホーム長の弾き語り(ギター)を先頭に、音楽を通して、入居者の生きてきた歴史を振り返り、それぞれの想いに共感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近い住宅地にホームはある。「なじみの中で、ゆったり生きる、ぼちぼち生きる、ありのまま生きる」という理念のもと、職員それぞれが目標を持ち「ホームづくり」に積極的に関わっている。特に利用者個別の生活の質・精神的な充実感や満足感を重視したQOLに基づく支援を実践している。利用者は得意分野を活かして裁縫や編み物、家事手伝いやパン作りなどを楽しんだり、一人で外出したり、自由に暮らせるよう支援している。利用者同士、会話を楽しみ生き生きと交流している。地域との交流も積極的に行っており、地域に向けた掲示板を設置し、ホームの案内や介護に関する情報の発信も行っている。家族と利用者の絆支援を行うことで、家族からの協力を得ながら理念を実践している優れたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なじみの中で ゆったり生きる ぼちぼち生きる ありのまま生きる という理念に沿い、管理者 職員ともに心がけながら、実践につなげている状況	前回の外部評価を受け、理念に「なじみの中で」の言葉を全員で話し合い追加した。利用者がゆったり暮らせる為の個別の対応や、ホームと地域とが馴染みの関係になるための方法を常に検討しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が作った雑巾などを、地域の方々や病院などに使っていただけるよう、利用者とともに訪問し配ったり、散歩時は声を掛け合い、会話があたりとの交流ぐらいの状況	自治会に加入はないが、隣接保育園児との交流を常に行っている。利用者が作った雑巾や編み物をプレゼントしたり、散歩時には日常的な挨拶をするなど地域の一員として接している。又、今年度は掲示板を作り、地域の方に情報を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設入口に掲示板を設置し、施設新聞や福祉情報の新しい情報などを、地域の方が自由に見れるよう掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれの方から出た意見などを、会議などに持ち込み、職員皆で話し合い活かすように努めている。	運営推進会議を今年度は6回開催している。規定のメンバーが参加して、事業所の状況や行事等の報告がなされている。以前、メンバーから提案された掲示板を設置しサービス向上に反映させており、今年度は、近所の方に呼びかけて消防訓練を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会及び、介護保険上の手続きや届出以外にも、相談・連絡等において、市の担当者と協力的な関係を築いている。	介護保険の更新や法令等のわからない箇所は市の担当者に相談している。生活保護の方の権利擁護に関する事で市の担当者と協議しており、関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上以外での鍵は自由に出入りでき、玄関・中門にセンサー設置し、モニターで確認おこなう。出て行かれる方がいる場合は、後方より見守りし、状況みて声かけなどに努める。	身体拘束ゼロを前提として、利用者への言葉遣いについて職員同士で注意しあい、言葉による拘束のないケアにも職員は取り組んでいる。利用者の精神・心の拘束ゼロに関する勉強会を行っている。玄関は夜間のみ施錠がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や職員間での情報共有し、勉強会などにて意見確認し、互いに防止に努めている。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを受けたりははあるが、全体ではまだ把握できている状況ではなく、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間かけ説明行い、目をゆっくり通していただき、不安や疑問点は話しやすい状況を作り説明、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会において、入居者やその家族の方々にも参加していただき、意見・要望を尋ねているが、特に意見がないことが多いため、普段の生活の中や面会時に何気なく発せられる言葉に耳を傾けている。	家族アンケートを実施し情報収集を行っている。家族の要望や希望は面会時に職員が聞いており、内容は業務日記や個人ケース記録に記入し職員間で検討されている。利用者は直接職員へ希望や要望を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職員会議・ユニット会にて、スタッフ主体の会議を行い、意見・提案を受け入れている。また、会議の場などでなくとも、日常的に入居者主体の生活を、スタッフ同士考えや意見を出し合いながら行っている。	第4木曜日に施設長も参加する職員会議、ユニット会議が行なわれている。職員会議では年間目標、月目標を話し合ったり、行事計画について提案を行っている。日頃から施設長と職員は意見交換をしている。ユニット会議では個別の介護対応について職員からの提案があり、検討し実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの、日常的な就労状況や考えを把握し、その職員がやる気を持って仕事に取り組めるように、給与水準のアップを含めた、役割や係を担っていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用後より、その職員の介護経験・介護能力に応じて、管理者を中心とするグループスーパービジョンを行い、必要に応じて内部での研修を行っている。また、経験・能力に応じて外部にて行われている研修にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH協議会で行われる、相互評価・職員交換研修・親睦会などに参加。また、独自の地域社会資源との交流を図り、ネットワークを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が話しやすい環境づくりに努め、本人の思いを傾聴するよう努めている。また、職員のほうからも話しかけ、利用者との良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面会時には声かけし、話しやすい関係を築きつつ、家族の思い・訴えなどを聞き出し、取り入れお互い話し合うことで、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活状況みながら、変化みられた際は、本人・家族またスタッフ間でも話し合い、その時々には何が必要か見極めながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日々の活動において共同作業にて行い、話し合い教わりながら、よりよい関係を築けるよう努めている。また、その中でも相手に対する礼節を忘れないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には利用者の近況を報告し、本人が家族に言えないでいる思いなど伝え話し合い、家族と共に働き掛ける。また、疎遠になっている家族へは、電話などにて報告し関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活歴などを把握し、なるべく本人の希望に添えるよう支援に努める。しかし、遠方より入居された方に対してはむずかしく、できていないところもある。	家族など馴染みの関係を大切にし外食や外泊支援を行っている。行きつけの美容院や買い物に出かけたり、住んでいた地域の敬老会への誘いがあったり、友人との年賀状やりとりや、携帯を所有し話すなど、馴染みとの関係は継続している。家族や民生委員からの新たな情報把握にも努め、関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な作業・レクリエーションの中で、それぞれが好きなことで集まり、みんなで働き掛け、全体で楽しめるよう、雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況把握行い、連絡あった際には相談や支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で良好な関係を作り、ケアプラン作成する際には、本人の思いなど把握できるようつとめている。	利用者の要望は普通の会話から聞き取り、ドライブや貼り絵作業など反映している。またケース記録等に記載し、実施に向け検討している。思いを上手く伝えきれない方は居室で個別に聞くなどの配慮を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や本人とのコミュニケーションの中で聞き取ったり、家族面会時に尋ねたりし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りなどに目を通すことで、各職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については、定期的にモニタリングを行っており、本人の状態が悪化した際には、家族に連絡を取り早めの対応を相談し、それらの意見を反映した介護計画を作成できるよう努めている。	短期3ヶ月で見直しを行っている。介護計画の実施具合が確認できる記録と気づきをもとに評価を行い、次の計画原案を作成し、ユニット会議で検討されている。その後、家族に介護目標の優先順位や意見を聞き、再検討した上で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにもとづき個別記録行っており、その中で日々変化がみられる場合は、職員間で申し送り意見交換し、より良いサービスが提供できるよう見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や個別の買い物、外出、外泊、家族の泊まり込み、介護タクシーの利用など、個々のニーズに応え、柔軟な対応ができるようつとめている。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が入居以前より利用されているなじみの美容室や商店が変わらず利用でき、また入居してから新たになじみになった地域資源を継続的活用できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望ある際は、なじみの医療機関の利用をゆうせんしている。特に希望ない場合は、ホームと連携している医療機関にて対応、緊急時の対応の家族の希望なども把握し支援に努めている。	利用開始前からのかかりつけ医を継続している。夜中や急変時対応など家族へ説明を行って往診可能な協力医に変更する場合もある。通院は家族の協力のもと、情報を共有している。訪問看護が週に1度来ており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携しており、緊急時対応の体制整えている。また週1回訪問時に入居者の状態など情報交換も行っており、適切な対応を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換おこない、常に状況把握に努め、支援できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居初期の段階より、家族へ終末期についての希望を聞き、入居者の気持ち、状態の変化みられる都度、家族の気持ちなども聞き取り話し合い、それぞれの支援に努めている。	指針があり、家族からも同意書を得ている。重度化の状況に変化があった時は、家族や利用者の不安を解消する為に主治医に説明してもらい、事業所も含め話し合いを行なっている。職員とも対応が話し合われ、訪問看護に緊急時の連携を取っており、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場の内部研修や、看護師による勉強会などで学んではいるが、実践力においては確実性に欠けるところがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が作った雑巾などを、地域の方々や病院などに使っていただけるよう、利用者とともに訪問し配ったり、散歩時は声を掛け合い、会話があたりとの交流ぐらいの状況	年2回消防署と夜間想定火災訓練をしている。消防署のアドバイスを受け居室名札で避難完了サインとしたり、実際に緊急連絡網を使って実践するなど職員で確認している。地域へも参加を呼びかけている。災害時の避難場所の確認も行われている。	次年度は現在の訓練に加えて自衛消防で2回訓練を予定しており、全職員が災害時に即対応できる体制と心構えを身に付けることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し対応しているが、時折言葉遣いや声かけに不十分なこともあり、態度にでることもある。	排泄誘導の言葉がけには気をつけている。家族には個人情報提供の同意は得ており、新聞写真掲載はその都度、同意を得ている。職員の守秘義務の誓約書はある。守秘義務の継続的勉強会を予定している。ただし、個人記録が目に触れる場所に保管してあるため、管理に配慮が必要である。	職員の守秘義務について勉強会の定期的開催により理解を深め、個人記録等の保管の際、氏名が見えないよう工夫することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いにより難しいところもあるが、本人の話しやすい雰囲気作りに努め、うまく言葉が出ないときでも、スタッフから声かけし、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせ、本人の希望に沿った生活を支援していきけるよう努めているが、本人の意欲の低下がみられるため、スタッフが働きかけるなど希望に添えていない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容院を利用することで対応できている。また、本人と共に買い物に行き選び購入することで、その人らしさが出せるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、何が食べたいか尋ね、献立に反映できるよう対応している。また、準備や食事、片付けも職員利用者共に行いそれぞれの力を活かせるよう支援している。しかし、できるかた・できない方、やりたい方・やりたくない方で偏りもみられる。	生活管理担当職員は過去の記録や利用者の希望を取り入れ献立をたており、旬の素材を使った食事を提供している。利用者は下準備や、後片づけに参加している。パン屋だった利用者を中心にパン作りをするなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表にて個々の摂取状態を把握し、確保できるよう働きかけている。摂取状況が悪い時には、個人の嗜好に合わせ摂取をできるようにしえんする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアプランにて対応している利用者に関しては対応できているが、自力にて行われる方に対しては、本人に任せており、口腔状態までは把握できていない方もいる。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々人の排泄パターンの把握に努め、ケアプラン・記録にて下剤・おむつ使用を減らすべく、スタッフ間でも統一した対応を行っている。	排泄パターン表を作成し、時間や仕草を見ながらトイレ意思確認を行いトイレに誘導している。おむつから布パンツ利用への支援を積極的に行っており、現在は布パンツ利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態を把握し、食物繊維の多い食物を摂取していただいたり、ヨーグルトや、牛乳・青汁牛乳・ココアなどを摂取していただき、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	だいたい週に2回ほどは入っていただくよう声かけはおこなうが、原則として入浴日・時間は決まっておらず、本人の入りたいときに入れるよう支援している。ただし、18時以降は対応できないこともある。	毎日午後14時から19時まで入浴でき、職員は同性介助、見守り介助の対応を行なっている。入浴記録をみて、間が空いている利用者には声かけ誘導をして、週に2回は入浴するよう支援している。湯かげんは利用者の希望に合わせている。入浴剤やしょうぶ湯やゆず湯の季節のものも取り入れ、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人のその日の体調や状況に合わせて、日中に臥床を促したり、夜間は巡回を行うなどして安心して休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はホーム管理させていただいており、服薬時・必要時にスタッフが手渡し服薬チェックする。また、お薬手帳(ノート)を作っており、薬の効果・副作用を確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が興味をもたれたことや、趣味などを活用し、気分転換や生活のメリハリが持てるよう支援している。(家事手伝い・畑作業・歌・習字・貼り絵・ドライブ・散歩・外気浴・飲酒など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿うよう努力はしているが、すべての入居者に対し同様の対応はできていない。家族の了承ある方に関しては、GPSを持っていただいたり、介護タクシーを利用することで外出されている。地域の人々との協力を得るまでは至っていない。	1週間に平均2回の外出をしている。また、個別に自宅へ帰宅したり、買い物に出かける場合も支援している。車椅子の方や外出の少ない方には職員が声かけて外出している。家族の協力のもと墓参りや命日に出掛けている。また全員で花見やピクニックを計画し外出の支援に努めている。	

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しい方においては、家族とも相談しホームにて管理させていただいている。買い物や外出の際には使える範囲で使っていただけるよう働きかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった場合は支援行っているが、スタッフ側から働きかけることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つよう掃除等行い心がけている。また、温湿度計を設置し、快適な空間が保たれるよう調整に努めている。他には、季節の壁飾りや花を飾ったりし空間づくりを行っている。	リビングには温度湿度計が設置されていて、快適な空間が保たれるように調整している。テレビの音や職員の声も穏やかでのびのび過ごされている。洗面台の高さも車椅子の方が使用しやすいように調整されており、居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれる空間はあまりないが、食堂のテーブル配置や、居間にはソファ・マッサージチェアなどあり、思い思いに過ごせるような居場所づくりの工夫はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物・写真・家具等、本人が大切にされていた物など、自由に持ち込んでいただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	各居室には出窓があり、馴染みの物や写真、置物等が置かれている。仏壇や趣味の製作をする為の机や椅子等を持ち込まれている。居室内の配置も個々の活動能力に応じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等わかりやすいように設置された張り紙や、自立歩行のための手すりの設置。また、家事手伝いの当番表で自分から流しの前に立たれたり、自主性を促した生活ができるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500083		
法人名	合同会社グローリー		
事業所名	グループホームみつばちの家 西館		
所在地	長崎県大村市竹松本町685番地8		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、交通の便の良い静かな住宅街の中で、大変恵まれた環境の中に立地しています。ホームの敷地入り口には今年度、掲示板を設置し、当グループホームの取り組みを地域の方々へ発信しています。また、スタッフ間で地域活動委員会、生活管理委員会を立ち上げ、地域活動としては、入居者が作った雑巾や編み物の作品を、お世話になった方々へ配布したり、畑や庭(ベンチを設置しました)を入居者と共に整備し、将来的には、畑で出来た野菜を配ったり、近所の方々をお庭へ招待できたらと思っています。生活管理活動としては、入居者の心身の健康、QOLの追求を目指しています。また、音楽を楽しむ場も多くあり、ホーム長の弾き語り(ギター)を先頭に、音楽を通して、入居者の生きてきた歴史を振り返り、それぞれの想いに共感しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったり生きる ぼちぼち生きる ありのまま生きる という理念に沿い 管理者 職員 共に心掛けながら実践につなげている状況		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が作った雑巾など地域の方々や病院などに利用者と共に訪問し 使ってもらったり 散歩時は声掛けあい会話の時間があつたりとの交流ぐらゐの状況		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設入口に掲示板設置し 施設新聞や福祉情報など地域の方々が 自由に見れ 新しい情報など掲示している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれの方々から意見など出た場合 会議など持込 各職員皆で話し合い活かすよう努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会及び介護保険上の手続きや届出以外にも相談・連絡等において、市の担当者と協力的な関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上以外での鍵は自由に出入りでき 玄関 中門にセンサー設置またモニターにて出て行かれている場合は後方より見守り状況見て声掛けなどに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議 職員間 での情報共有 勉強会などにて意見確認 互いに防止に努めている		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など受けていたりはあるが 全体にはまだまだ把握できている状況ではなく活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間かけ説明行い 目をゆっくり通していただき 不安 疑問点は話やすい状況をつくり説明 理解して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会において、入居者やその家族の方々にも参加していただき、意見・要望を尋ねているが、特に意見が無いことが多いため、普段の生活の中や面会時に何気なく発せられる言葉に耳を傾けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職員会議・ユニット会にてスタッフ主体の会議を行い、意見・提案を受け入れている。また、日常的に入居者主体の生活をスタッフ同士が考えや意見を出し合いながら行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの日常的な就労状況や考えを把握し、その職員がやる気を持って仕事に取り組めるように、給与水準のUPを含めた役割や係を担っていただいている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用後よりその職員の介護経験・介護能力に応じて、管理者を中心とするグループスーパービジョンを行い、必要に応じて内部での研修を行っている。又、経験・能力に応じて外部で行われている研修にも参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH協議会で行われる相互評価・職員交換研修・親睦会等に参加し、また、独自の地域社会資源との交流を図り、ネットワークを築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方との会話心がけ不安 要望には傾聴しできるだけ支援行うよう心がけ安心できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し送り また 業務日誌に書き入れたり 会議等でのスタッフ間の話し合いをもち 要望などに答えられるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活状況見ながら変化など話し合い 何が必要なのか見極め対応努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で共に職員 利用者関係なく 話し合いながら教わりながら共同作業 ありがとう と言える 支えあえる関係を築くよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会に来られた際は最近の状況報告し 疎遠になっている家族へは電話等での報告を行い関係作りを築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でもが面会できるよう心がけオープンにしていくよう 又理美容 病院など変化がないよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌 作業 畑それぞれが好きなことで集まり 全体で楽しめる現場を作り関わり合えるよう支援に努めている		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時が入院の場合などその後の状況又経過などは連絡とり相談や支援出来るように行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれのケアプラン作成する際本人の思いなど把握し又日々の生活のなかで関係づくり聞き入れる時間儲けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家庭での生活 暮らした環境 本人 家族面会時などで聞き把握に心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌 申し送りなどにて各職員が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方についてのモニタリングに関しては定期的に行っているが家族に関しては中々出来ない家族もある中で意見出しあい即した計画作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し変化がある場合などは職員間で申し伝え日々変化に対して工夫見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活介護であるので、各病院への受診はもちろん、個別の買い物、外出、入居者家族の宿泊等、個々のニーズに合わせ、柔軟に対応している		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が以前利用していた美容院や理髪店、お付き合いのある商店、また、ホームに入居されてからお付き合いのできた関係各所との変わらないお付き合いが継続的に出来るように支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診対応できる医療機関との連携又緊急時の対応の家族の希望の把握など行い支援行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護との情報交換又緊急時の連携の体制あり いつでも受けられる支援行う		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との情報交換行い いつでも 状況把握し支援できる体制に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期の段階から家族の終末期についての希望聞き変化と共に再度確認とりながら話し合いそれぞれの支援に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会など行っているが不定期の為全員が身につけているわけではない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練は行っているが 地域との体制がなかなか行えていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に知られたくない話には居室にて1対1にて対応職員間での情報共有し排泄失敗時などは他者に気づかれないように心がけ対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	[どうしました][どうしました]など自己決定しやすい言葉かけなどしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望すべてには実行できてはいるができるだけ時間作り 職員間の連携とりながら支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望された時の美容室 理容室への送迎又日々の化粧 髭の促し支援など行う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々[何が食べたいですか]など利用者の好みなどメニューに取り入れたり 配膳 調理下準備などそれぞれの範囲での支援行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方々にあった刻み ミキサー おかゆなど摂取しやすいよう工夫水分摂取量など誰でもが気づけるようチェック表に記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け行い目につくよう準備行いながら週1回ポリドントも洗浄行うよう心がけている		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた定時のトイレ誘導行い夜間日中の下着や紙パンツ パットの使い分けを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳摂取していただき運動など働きかけ食物繊維などメニューに取り入れチェック表にて便秘が続く場合は主治医より支持のあつた薬服用おこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	曜日や時間は決めず入浴声掛け行い拒否あつた場合翌日に声掛け行うよう努めている まだ夜間帯の入浴は行っていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の入眠時間は各自に任せ体調悪い場合は声掛け支援行い状況の把握に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や服用方法については理解はしているが副作用までは理解できていない場合もあり変化等ある場合は主治医への連絡行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が役割楽しみと感じていることがスムーズに運ぶよう支援にに努めている[ドライブ 買い物 歌会 散歩 手伝い]		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との連絡 協力で自宅への一時外出や帰宅又職員とのドライブや行事など希望聞いて出来る限りの範囲で行えるよう支援している		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルのないよう努め 自力での管理可能な方は小遣い程度所持され 難しい方は一緒に買い物時に職員と共に財布持ち使えるよう支援行う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に沿って電話したり家族の負担が大きい時などは工夫しながら支援行う 「前もつての家族承諾いる場合」		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度一定に保つよう心がけ 季節感取り入れた手作りのポスターやカレンダー作成し 不快な環境にならないよう心がけに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファ置きテレビ観たり利用者同士自由に話せる空間作りの工夫に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人家族が思うように配置していたが家族との写真や居宅にて遣い慣れた家具など使用され心地良く過ごせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各室ドアには表札 トイレなどには矢印印い自力で使用出来るよう工夫行い 夜間などは 見守り声掛け行いながら 理解できるよう伝える工夫している		